

昨秋、白河の地で名演奏を繰り広げた檜枝岐歌舞伎から、 義太夫節の語り手が登場。

古典のみならず創作浄瑠璃の演奏を交え、
浄瑠璃の魅力をたっぷりとお話しいたします。

竹本仁太夫

(たけもと・ひとたゆう)

本名・室井一仁。1988年、南会津町出身。2000年、田島祇園祭屋台歌舞伎の子ども役者となる。翌年、大歌舞伎義太夫「竹本」の重鎮であった故・竹本綾太夫師のスカウトを受け、13歳で義太夫語りとしてデビュー。役者引退後の2005年には、太棹の三味線による弾き語り奏者となった。

2011年からは、檜枝岐歌舞伎「千葉之家花駒座」の義太夫として始動。

2014年から、三味線方・野澤松也師が創始の「創作浄瑠璃」の演奏講演を、県内外で多数勤める。詞・曲・演奏の全てを自ら手掛けた作品もある。

このほか、竹本乾太夫師の三味線方「野澤仁一郎」として、地方の人形浄瑠璃や、国立劇場、浅草公会堂などでの日本舞踊公演にも出演多数。



日時：令和8年3月26日（木）18：30から

会場：白河市立図書館・地域交流室

講師： 檜枝岐歌舞伎の義太夫語り 竹本仁太夫さん

演題：「浄瑠璃へのいざない～伝承・檜枝岐歌舞伎～」

参加費：500円（塾生 無料） 問合せ先 立教志塾 0248-23-1427

主催：公益財団法人 立教志塾

後援：白河市・同教育委員会